令和３年5月 21 日
村田高校図書館

としょかんだより

令和３年５月号

新規受け入れ本の紹介

「マナーはいらない　小説の書きかた講座」 三浦しおん著
「犬がいた季節」 伊吹有喜著
「52 ヘルツのクジラたち」 町田そのこ著　　←本屋大賞受賞作！
「お探し物は図書館まで」 青山美智子著
「芸人人語」 太田光著
「自転しながら公転する」 山本文緒著
「眠れぬ夜はケーキを焼いて」 午後著
「涼宮ハルヒの直観」 谷川流著　角川スニーカー文庫
「青くて痛くて脆い」 住野よる著　角川文庫
「宮廷医の娘」 1、2　冬馬倫著　メディアワークス文庫
「龍に恋う」 道草家守著　富士見Ｌ文庫
「よみがえる変態」 星野源著　文春文庫
「僕と君だけに聖夜は来ない」 藤宮カズキ著　角川スニーカー文庫

などなど

こんな本もあります

「図書室のキリギリス」 竹内真著　双葉文庫

学校司書ってどんな仕事？　そう問われることがあります。学校図書館にいて生徒と図書館をつなぐ仕事、でもよくわからない・・・かもしれません。

学校司書が主役の本があります。

バツイチになったのを機に、資格を持たない“なんちゃって司書”として高校の図書室で働き始めた詩織。慣れない仕事に戸惑うものの、生徒たちと本の橋渡しをしたり、謎めいた本の来歴を調べたりするうちに、学校司書の仕事にやりがいを覚えるようにな

っていく。

自分の道を歩き始める女性と読書を通して世界を広げていく高校生たちの姿が感動を呼ぶ作品。

文末に著者による掲載図書のブックトークも載っています。

高校の図書館の人間ドラマは熱い！

図書館日誌

某月某日

昨夜とあるクイズ番組をみていたら「ゲームをやりすぎたと思う時間は何時間か？」という設問があった。

二男と長女（大学生）は「う～ん９時間くらい」

ちょっと待ちなさい。一日は24時間しかないんだよ。その三分の一以上ゲームをやって、ようやくやり過ぎって思うって、そりゃあやり過ぎでしょう？でも、子どもたちは涼しげな顔をして悪びれない。

みなさんはどうですか？

わたしなんてあつもり２時間もやれば飽きるけど。（5月はまぐろもかじきも釣れなくてつまらないわ）

今日のカウンター当番は３年男子。一生懸命日誌とにらめっこ。

村田高校の委員会活動はいろいろあるけれど、一番地味で目立たないのが図書委員会ではないかしら。とくにメインの活動がカウンター当番という、一言でいえば“花がない”委員会。

でも、委員は一生懸命活動してます。

クラス別貸出（令和３年４月）

	１組	２組	３組	計
１年次	20	20	21	61
２年次	2	5	18	25
３年次	5	0	0	5
計	27	25	39	91